

## 平成30年度 重点・強化施策及び懸案事項

課名	河原町総合支所	課・室長名	支所長 遠藤 全
<p>【最重点・強化施策①】</p> <p>河原町総合支所庁舎耐震化工事</p> <p>・工 事：平成30年9月～平成32年3月（予定）</p> <p>（現況・課題）</p> <p>河原町総合支所本庁舎は、昭和43年建築、耐震性能I S値0.38であったため耐震化が検討された。本庁舎と本庁舎に併設されている第2庁舎を比較検討した結果、本庁舎は解体、平成2年新耐震基準で建築された第2庁舎を増改築し耐震整備することに決定し、平成29年度に実施設計が行われ、平成30年9月頃から耐震化工事の予定である。</p> <p>しかし第2庁舎に併設している昭和53年建築の河原町コミュニティセンターは、施設の老朽化が著しく、併せて耐震基準を満たしていないため、耐震改修整備が急がれるところである。</p> <p>（具体的な取り組み（事業名、予算額等））</p> <p>総合支所の耐震化整備を推進することにより、防災・市民サービスの拠点としての機能を維持する。併せてコミュニティセンターの利用者の安全確保及び満足度向上のために早急な耐震改修と維持管理に係る予算の要望を行なう。</p> <p>○総合支所庁舎耐震化工事については6月補正に計上（財産経営課） 内示額：157,058千円</p>			
<p>【最重点・強化施策②】</p> <p>鳥取市河原町国英地区活性化施設（仮称）整備事業</p> <p>（現況・課題）</p> <p>国英地区は、地区内に体育館を有しておらず、地区球技大会、高齢者スポーツ大会などを千代川左岸側の総合体育館等で実施していた。</p> <p>また、現在の指定緊急避難場所は国英地区公民館だが、大規模災害となると千代川左岸側体育館等に避難せざるを得なくなり、橋を渡っての避難となり大変危険である。</p> <p>（具体的な取り組み（事業名、予算額等））</p> <p>国英地区に屋内運動場や備蓄倉庫を兼ね備えたコミュニティセンターを整備することにより、高齢者の健康増進のためのスポーツ大会や、大規模災害時における安心安全な避難場所が確保される。</p> <p>また、地区内の進出企業であるイナテックとの交流を深めることによりこれまで以上に地区の活性化が図られる。</p> <p>○6月補正に計上（地域振興局地域振興課） 内示額：11,314千円</p>			

### 【最重点・強化施策③】

#### いなば西郷むらづくり協議会の「工芸の郷づくり」への取組支援

##### （現況・課題）

西郷地区には、牛ノ戸焼、因州中井窯、やなせ窯と著名な3つの窯があり、いなば西郷むらづくり協議会は、地域の資源を活用した地域活性化に取り組まれてきた。平成25年、やなせ窯の白磁作家前田昭博さんが人間国宝に認定され、西郷地区を「ものづくりの郷」にしたいと、知事・市長・商工会議所会頭等との懇談で表明、平成28・29年と西郷工芸祭りを開催され、西郷工芸の郷を広く県内外にPRされた。

少子・高齢化が進む西郷地区では、交流人口の拡大や移住定住に取組まれ、平成29年4月には移住者花井健太さん等を迎え取組の成果が徐々に浸透してきている。さらに、湯谷温泉周辺に工芸研修棟・レストラン・福祉介護施設等の「工芸の郷」を構想され、この西郷地区の取組は、鳥取市の移住定住や少子高齢化へのモデルであり、今後も、強力に支援していく必要がある。

○これまでの支援（事業実施主体は一般社団法人西郷工芸の郷あまんじゃく）

- ① H28年度 新たな起業・創業人材移住強化事業補助金  
陶芸窯、作業場の整備4,500千円（県、市1/2、事業費9,766千円）
- ② H29年度 新たな起業・創業人材移住強化事業補助金  
研修や生活基盤確保への支援1,320千円（120千円/月）（県、市1/2）
- ③ H29年度 若者定住促進モデル事業補助金  
北村の診療所跡をシェアハウスに改築1,569千円（県市2/3、事業費2,355千円）

##### （具体的な取り組み（事業名、予算額等））

- ① H30年度 新たな起業・創業人材移住強化事業補助金  
研修や生活基盤確保への支援1,200千円（100千円/月）（県、市1/2）
- ② 新たな移住者の動機づけ等のための文化振興を加えた支援の創設の検討
- ③ 人間国宝前田昭博さんとのコラボによる鳥取市の観光・文化振興の拠点としての「工芸の郷」の実現に向けての検討

### 【懸案事項】

#### 浸水対策への取組(排水ポンプの設置等)

- ・平成29年は、台風がたてつづけに襲来し河原町内に甚大な被害をもたらした。
- ・河原町内の千代川・八東川に樋門水門が16か所（国管理）、宇戸川に樋門が2か所（県管理）あり、それぞれの管理者から鳥取市に委託され、鳥取市より操作員に委託している。
- ・今回の浸水対策として、緊急排水ポンプや常設の排水ポンプを設置する必要がある。

#### 【現在の状況】

##### 1、下渡一木

- 1) 千代川への放流水路は国管理、大井手川は県管理で、内水対策は、市が排水ポンプ車を国及び県に要請することとしている。
- 2) 河原水門は、昭和54年の台風による水位等を基準に平成元年に設置されてものであり、今回の台風18号の雨は、昭和54年を超えるもので、国も見直す必要があるか、現地の浸水状況を調査し検討している。
- 3) 県は、大井手川は基本的に用水路であり、大規模な河川改修でなく、住民への情報提供（ライブカメラ等）を市を通して行うことで対応される予定。
- 4) 市としては、河川堤防の低い箇所のかさ上げ等を県に要望している。

##### 2、下佐貫

- 1) 常設排水ポンプの設置を前提とする流域調査を実施（都市環境課、予算額4,911千円）